

頑張る

農業法人

2008年2月26日に設立された、宮津市の農業生産法人「3Y夢クラブ合同会社」。

伊根町に近い同市大島に住む同級生の3人が、ほぼ同時に退職して就農し、農業に夢を持つ組織として法人化した。経営規模も徐々に拡大し、地域の信頼感も高まってきている。

経営するのは、地元と同級生でもある小嶋保徳さん、島崎豊さん、井上康博さん(いずれも56歳)の3人。各人の名前の頭文字をまとめた「3Y」が、農業に夢を持って取り組もうという願いを込めて法人名にした。

代表社員の小嶋さんと井上さんはJA職員、島崎さんはサラリーマンだったが、05年に本格就農を目指し、30年間の勤

めに終止符を打った。3人は遊休農地が増えていた同市日置で、ハウス3棟を借り、ブランド切り花「ストック」の栽培に取り組んだ。

当初、苗の鑑別に苦勞したが、JAの講習会や地元ベテラン農家から学んで技術も向上。徐々に同市の日置と大島にハウスを増やした。

小嶋さんの名でハウスを借りていたが、3人が対等の立場でやっていたという法人化を決意。出資者による意思決定などが迅速な会社運営が可能で、小規模企業に最適な「合同会社」にした。資本金は120万円。代表も含め3人が社員となつて経営する。

現在、日置にあるハウス20棟のうち6棟で、ストックの早生、中生、晩生を11月中旬から翌年3

月末まで、JA京都宮津府中支店に順次出荷する。残る14棟と大島の6棟は、JAを通じて種苗会社

3Y夢クラブ合同会社

宮津市



ストック収穫に励む小嶋さん(右)と島崎さん

遊休地借りストック

同級生3人同時退職し就農

への蔬菜(そさい)採種(キャベツ、ダイコン、ハクサイ)に取り組んでいる。

同地区では高齢化、担い手不足が進むが、法人化後には地元から「ハウスの面倒をみてくれ」と委託要請の声が寄せられるなど、地元からの信頼度も高まっている。

昨年まで同JA蔬菜採種部会宮津支部長を務めた島崎さんは「みんなの夢を結集し、農業で生活ができるよう取り組み、地域活性化につなげたい」と熱い思いを語る。

小嶋代表社員は「遊休農地の面倒をみて、地域農業を守っていきたい。さらにハウスを増やしたいので、共鳴し、我々についてきてくれる若い人ができればうれしい」と意気込んでいる。

▽法人の所在地 宮津市大島497

現在、日置にあるハウス20棟のうち6棟で、ストックの早生、中生、晩生を11月中旬から翌年3月末まで、JA京都宮津府中支店に順次出荷する。残る14棟と大島の6棟は、JAを通じて種苗会社